

たのえづわ



冬神門図(西条正鳳画)

第208号



年頭にあたり

宮司 吉田源彦

皆様、明けましておめでとうございます。令和の御代となり、初めて迎えるお正月を皆様と共に祝い申し上げます。昨年は御大礼が行われ、諸儀式が国の重儀として厳肅裡に行われましたことは、我々国民にとりましても大変喜ばしく、まさに記念すべき年であったように思われます。特に即位礼正殿の儀におきましては直前まで降っていた雨がやみ、虹が出たと伺っております。明治天皇様の「天てらす神の御光ありてこそわが日の本はくもらざりけれ」との御製にもある通り、我が国は天照大御神の御光のもと、八百万神々の御神威をいただき栄えて参りましたが、皇孫たる新たな天皇陛下の即位礼に併せるように神々の寿ぎの御光をお見せいただけたように感じます。令和の御代が、ますますに明るく希望に満ちたものとなるよう、我々国民一同手を携え、努力を惜しまず、歩んで参りたく存じます。

また、昨年は当神宮におきましても、御鎮齋百五十年という佳節を迎え式年祭を齋行させていただきました。かかる節目に様々な記念事業を行うことが出来ましたことは、ひとえに陛下の大御心の御恵に預かったことと、皆様のご崇敬の賜物であると存じます。改めて感謝申し上げます。

さて、冒頭でも述べました通り、我々は令和の御代を戴いて初めてのお正月を迎えたわけです。日本には正月を迎えれば神社へ初詣に行くという習わしがございます。皆様は新年を迎えるにあたり、大神様へ昨年までの感謝とこれからの恩頼みたまのたまを祈られているわけですが、我々神社界におきましては一月一日に、歳旦祭という年の始めを祝い皇室の弥栄と国の平和を祈る神事が齋行されています。そして、その神事は宮中においても齋行されており、さらにはそれに先

だち、天皇陛下におかされましては四方拝という儀式を齋行なさっておられるのです。この四方拝という儀式は、黄櫨染の御袍を召されて劍璽とともに宮中の神嘉殿の南庭に出御され、伊勢神宮をはじめ、四方の神社、歴代天皇の山陵を御遙拝遊ばされ、五穀豊穡と国家国民の安寧を御祈りになられるものです。我々国民はこの令和の御代におきましても、天皇陛下の国民を想う大御心のもと生きているのだということを決して忘れてはならないと思う次第でございます。

最後になりましたが、皆様方には、寒い日々が続くとは存じますが、どうぞご自愛いただき大神様の御加護のもとご健勝にてお過ごし頂きますようご祈念申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

祭典行事案内

毎月「二日」

月首祭並吟詠講誕生祭
一日参り（※一月・九月を除く）

「十日」

旬祭並敬神婦人会誕生祭

「十五日」

月次祭並むすび会誕生祭

「二十日」

旬祭並興風会献詠祭

◆一月

- 一日(水) 午前七時 歳旦祭
- 三日(金) 午前九時 元始祭
- 七日(火) 午前九時 昭和天皇祭遙拝
- 十四日(火) 午前十時 古神札焼納祭
- 十九日(日) 午前十一時 祈請祭

◆二月

- 三日(月) 午後三時 節分祭
- 十一日(火) 午前十時 紀元祭
- 十七日(月) 午前十時 祈年祭
- 二十三日(日) 午前十時 天長祭

◆三月

- 二十日(金) 午前九時 春季皇霊祭遙拝
- 二十九日(日) 午前十一時・午後二時 入学祭

頓宮 札幌市中央区南一条東三丁目

毎月「二日」 午後六時（月は午前十時）

月首祭並二日講社誕生祭

◆一月

- 一日(水) 午前十時 歳旦祭並
一日講社誕生祭

十四日(火) 午前十時 古神札焼納祭

◆二月

- 三日(月) 午後五時 節分祭

天皇さまとまつり

令和元年、天皇さまは「即位の礼」を行われました。諸儀式は主に、即位の礼・大嘗祭・大饗・御親謁と続きましたが、その中でも「大嘗祭」(おほにへのまつり)は、古来より天皇さまが一代に一度行われる最も重要なお祭りとしてきました。「大嘗祭」は、天皇さまがご即位されて始めて行われる「新嘗祭」のことです。天皇さまは、毎年十一月二十三日には宮中で「新嘗祭」をおつとめになられます。稲の収穫を祝い、神々とともにその年にとれたお米をいただくことにより、翌年に向けて新たな活力(生命力)を神々からいただくお祭りです。この「新嘗祭」を即位にあたって国民ともども厳粛におつとめになるお祭りが「大嘗祭」であ

ります。

今日、天皇陛下は、日本国の象徴として数々の御公務を行われていらっしゃるようですが、わが国が始まって以来、天皇陛下の最も大切なお勤めは、御親ら世の平らぎをお祈りになる祭祀を執り行われることでした。そして今日に至るまで、祭りこ

そが、天皇さまの御位と不可分のお勤めであると申せましょう。

国民の盛大な奉祝のもと、天皇陛下御即位の大礼が行われたことはまことにめでたいことでもあります。が、平素より陛下が、宮中三殿・神嘉殿で御齋行になつておられる恒例の祭祀もまた、われわれ国民にとつて、きわめて大切なお祭りであります。といたしますのも、陛下のお祭りは、決して陛下の私的な信仰、皇室内の祭祀ではなく、常に国の発展、国民の幸福、世界の平和をお祈りになられる広い意味をもったお祭りだからです。

ところで宮中三殿について申し上げます。皇居の自然を今につたえる森の中に、宮中三殿が鎮まっています。皇室の御祖神天照大御神をお祀りする賢所を中央にして、皇室の



悠紀齋田拔穂の儀



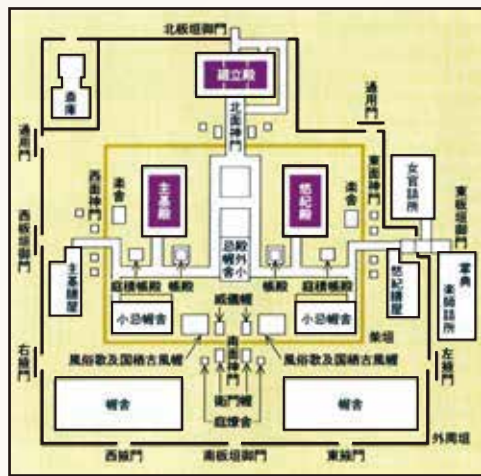
大嘗宮

御先祖の御霊をお祀りする皇霊殿、天神地祇、八百万神をお祀りする神殿があります。この三殿を宮中三殿と申し上げます。さらに新嘗祭が行われる神嘉殿が、この三殿と一体となつて建っています。宮中三殿・神嘉殿は、天皇陛下が恒例の大小のお祭りを御奉仕され、神々・祖霊に

お祈りを捧げられる神聖な齋場であります。陛下は、常に皇祖神の御神意・御歴代天皇の御志を体すべく、まごころを尽してお祭りを続けられています。それは、日本の国の繁栄を祈念された天照大御神の御志を継承し、その御志をこの現代において生かすことを目的とするお祭りにはかなりません。

天皇陛下は、宮中三殿の祭祀を通じて、天照大御神・御歴代天皇と御心をひとつにして国民のつつがないくらしと、国の栄えを祈られることに終始されます。国の平和と発展を期すという点で、祭りと政治は同じ精神を共有しています。この意味で古来、まつりとまつりごとは一体でした。その祈りは、広く四海の太平、国際社会の平和にも及びます。

昨年秋に行われた大嘗祭は、御代



大嘗宮平面図

のはじめに当って、国家的・国民的規模の奉賛により、新帝がはじめて御親祭される新嘗の祭典でした。わたくしどもも、陛下のお祭りの御心を、さらには、この国の発展を祈られる天照大御神の御志を体して、天皇陛下のお祭りの御手振りを仰ぎ、その御心のままに御国の彌栄を祈り、この令和の御代をよりよき時代として築き上げてゆきたいものです。

北海道神宮

所蔵品紹介



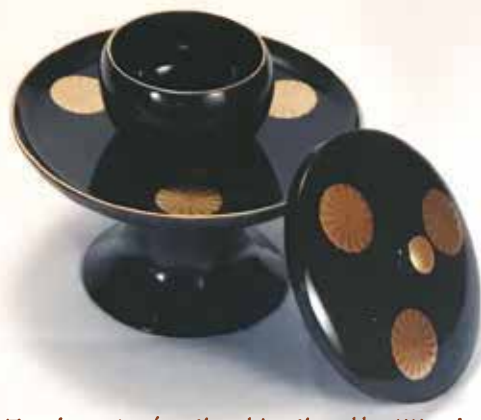
「札幌神社元旦初詣図」 西条正鳳画

西条正鳳（正一）画伯は大正元年、札幌に生まれました。早くより叔父であり大阪在住の井内春鳳に伝統的な日本画の基礎を学び、昭和十五年には日本画界の異端児とも称された巨匠・川端龍子の会である青龍社に出品し入選を果たしました。その後も連続入選し、その才能を認められ、川端龍子に師事し、中央画壇で高い評価を受けながらも札幌にあつて活動を続けた当時の北海道を代表する日本画家です。この絵は神社の正月頒布用の絵葉書の原画として描かれたもので往時の初詣の様子が伝わる貴重な資料となっております。



満州古衣

中国製の絹織物を使った衣服。施された文様はアイヌ民族のものではなく、おそらくはアムール川下流域の民族であるウリチの人々のものであろうと推測されます。なぜ北海道神宮に存在したのか明確な理由が不明な資料ですが、白野夏雲宮司にかかわる資料と考えられています。明治以前の北方交易によりもたらされたものであるのではないかと考えられています。現在、北海道博物館（旧北海道開拓記念館）にて保管されており、以前藤村久和氏（北海学園大学教授）らにより調査、解体修理が行われました。



明治天皇御物御茶器台

昭和五十一年七月二十日、本殿御復興地鎮祭にあたり東久邇家より奉納された、北海道神宮の御祭神でもある明治天皇の御物。黒漆塗で十六葉八重表菊の御紋が金の高時絵で施されています。



「不老長春図」岩田華谷画

大正時代にあった札幌神社の額殿に奉納された額の一つ。岩田華谷氏により木板に直接描かれたものです。松は別名を不老樹、薔薇は長春花と呼ばれ、古くからこの二つを配した絵画を不老長春図といいます。中央には縁起の良い鳥とされるつがいの孔雀が長寿円満をあらわしています。



「額殿天井絵」

大正十四年に竣工し、翌大正十五年に屋根の雪により倒壊した額殿の天井を彩っていた絵の一つ。大黒屋前田慶次郎氏により奉納されたもので、木板にダリアが描かれています。

「札幌神社

例祭渡御図」

井内春鳳画

札幌神社の昭和十五年頃の例祭神輿渡御の様子を伝統的な日本画の画法により描かれた絵です。沿道の大勢の人々が低頭するなか、騎馬の神職を先頭に大真榊、四神旗、鉾、紫鬘と続き白丁に担がれた鳳輦が続いています。画人の井内春鳳氏は北海道で活躍した日本画家である西条正鳳画伯の叔父にあたる人物です。



北海道博物館展示

① 開催概要

創祀百五十年となる札幌神社、後の北海道神宮が当館に寄託している考古・民族資料について、六代宮司白野夏雲の役割に焦点をあてて紹介します。また、北海道神宮が明治年間以来、収蔵されてきた書画、器物や記録類のなかから、北海道の歴史にかかわりのあるものを中心に公開します。さらに、二代宮司となる菊池重賢が、明治五年（一八七二）に実施した神社取調を再考します。

② 会期／令和二年二月八日（土）～四月五日（日）

③ 会場／会場 北海道博物館二階 特別展示室 入場料／無料

社頭風景

九月中旬
十一月

神嘗奉祝祭並びに 年番引継祭齋行

十月十七日伊勢の神宮において神嘗祭が齋行されました。神嘗祭とは、伊勢の神宮においてその年に収穫された我々日本人の主食でもある「お米」を、大神様に奉り召し上がっていただく祭典です。伊勢の神宮では年間で一千六百余りある祭事の中、最も重要とされている祭事です。北海道神宮からもこの祭典に併せ、神饌田でとれた稲穂を伊勢の神宮にお送りしております。



敬神講社旗返還



引継式

北海道神宮では当日、約百名の参列の下、神嘗奉祝祭が厳粛に齋行されました。また、併せて齋行された年番引継祭では、第七東祭典区関堂勝幸副講長より敬神講社旗が返還され、吉田宮司より次年度新年番となる第八豊平祭典区中川昭一講長に授与されました。祭典終了後、本殿にて前年番への感謝状と記念品の贈呈に引き続き、新年番の講長・副講長への委嘱状が手渡されました。その後、参集殿にて新旧年番による引継式が行われました。これにより令和二年度の札幌まつりが本格的に始動することになります。

新年番

講長・副講長ご紹介

令和二年度は、第八豊平祭典区が敬神講社年番となり、例祭の渡御奉仕を頂きます。第八豊平祭典区の代表委員長及び代表委員は次の通りです。(敬称略)



第八豊平祭典区代表委員長
敬神講社
講長 中川昭一



第八豊平祭典区代表委員
敬神講社
副講長 柴田崇行



第八豊平祭典区代表委員
敬神講社
副講長 濱田繁光



第八豊平祭典区代表委員
敬神講社
副講長 藤田良則

第四十五回北海道神宮 少年剣道大会

九月二十三日秋分の日に開催される予定でした北海道神宮少年剣道大会は、雨天のため残念ながら中止の判断を出させていただきました。来年度は平常通り開催する予定ですので、皆様のご参加、ご協力をお願い申し上げます。

即位礼当日祭

十月二十二日皇居において、黄櫨染御袍を召された天皇陛下が、正殿「松の間」で高御座に昇御され、皇族方や外国の元首、国内外の代表らの参列のなか、即位のことを内外に宣明遊ばされる即位礼正殿の儀が執りおこなわれた。

それにあわせ、伊勢の神宮をはじめとする全国の神社や神社本庁で「即位礼当日神社に於て行う祭祀」が斎行され、当神宮におきましても、当日十時より即位礼当日祭として祭典を斎行し、一三四名の参列のもと国家・国民の繁栄を祈念致しました。



祝詞奏上

明治祭



納曾利

北海道神宮では御祭神の一柱としてお祀りされている明治天皇の御聖徳を仰ぎ十一月三日に明治祭が斎行されました。明治祭では毎年、明治天皇が明治十四年に行われた北海道巡幸の折りに聞き召された開拓使麦酒醸造所(現サッポロビール(株))の麦酒の往時の味わいを再現した「開拓使麦酒」を明治祭の神饌としてお供えています。

当日は祝詞奏上の後、舞楽「納曾利」が奉奏され、宮司以下参列者一同で「明治節」を唱和しました。

明治天皇行幸記念碑

明治十四年八月三十一日、当神宮の御祭神でもあります明治天皇は札幌御巡幸の折、札幌村開拓の先人達が大夫堀を中心に開墾した、農業の実状を親しく御視察されました。

昨年は御大礼の奉祝の年であり、令和という新しい御代の始まった記念すべき年であったことから、地元では先人の開拓精神を今に活かし未来へと繋いでいくため、明治天皇行幸碑を建立しようという機運が高まり、明治天皇行幸記念碑建立期成会が結成され、札幌村郷土記念館敷地内に記念碑が建立され、令和元年十月二十五日に除幕式が行われました。



明治天皇行幸記念碑

大嘗祭当日祭



浦安の舞

十一月十四日、宮中の大嘗宮において大嘗祭が執り行われました。大嘗祭とは一代に一度行われる、天皇陛下が御即位の後、最初に行われる新嘗祭のことです。当神宮や全国の神社においても例年は十一月二十三日に行っている新嘗祭をこの日に大嘗祭当日祭として斎行しました。祭典では大嘗祭が執り行われる事を神前に奉告し、神楽「浦安の舞」が奉奏され、国の平和、皇室の弥栄、そして五穀豊穣への感謝の祈りが捧げられました。また、大嘗祭当日祭並びに十一月二十三日の新穀勤労感謝祭では大嘗祭にて供えられる黒酒と白酒が神前に捧げられました。

勤労感謝祭 並びに即売会

十一月二十三日午前十時、毎年この日は新嘗祭という新穀感謝の神事を斎行致しておりますが、本年は天皇陛下御即位につき大嘗祭が斎行された為、本年は新穀勤労感謝祭として斎行させていただきました。当日は二八一名の参列のもと、海川山野の幸を捧げ、北海道神宮神饌田奉斎会を始め、農業・商工業・漁業・林業・酒造の各団体代表者が幣帛を献じ、厳肅裡に斎行されました。



献饌



退下する神職と神門を彩る船盛

祝詞奏上の後、北海道農業協同組合中央会代表理事会長飛田稔章氏が豊作感謝の祭詞を奏上しました。神前は北海道神宮神饌田より収穫された「ゆめぴりか」十俵をはじめ、多くの方々より奉納されました品々で埋め尽くされ、「豊作丸」「繁栄丸」と名付けられた、JAさっぽろと北海道神宮校舎祇講によつて奉納された野菜各種の船盛が神門前に飾られました。

また、祭典に先立ち午前七時より北海道神宮北一条駐車場にて、新穀勤労感謝祭実行委員会主催の、第三十七回即売会が行われ多くの人で賑わいました。

第六十一回献菓祭

十月四日(金)午前十一時より第六十一回献菓祭が北海道神宮本殿にて斎行されました。

北海道神宮銘菓奉献会会長長沼昭夫氏を始め全道各地の会員より銘菓が御神前へと奉献され、祭典後には参集殿にて直会を行いました。

神門内では奉献された銘菓の展示、ガールスカウト北海道第八団による野点の奉仕、香老舗松榮堂によるお香の葉作成体験、株式会社美好屋と「北海道焼チーズ」推進協議会による販売会も行われ境内を賑わせました。



奉納された銘菓

第六十一回北海道神宮銘菓奉献会「献菓祭」に奉納頂きました皆様方をご紹介します。
数々のご奉納ありがとうございました。(敬称略・順不同)

〈所在〉

〈奉献菓名〉

〈会社名〉

〈代表者名〉

江差町	江差の繁次郎	浅野野屋	浅野 吉雄
札幌市	札幌おみやげカシュー	池田食品(株)	石田 光司
札幌市	白い恋人	石屋製菓(株)	水田 光司
札幌市	米作久	(株)一久もち処一久大福堂	久木 利弘
札幌市	焼きドーナツ	欧風菓子モン・ジェリ	守屋 卓光
札幌市	稚内流水まんじゅう	(有)菓子処久保	久保 博司
札幌市	伊達かぶとまんじゅう	(株)菓子処大丸	中村 寿志
札幌市	ほつちやれ	菓子処みつや	今野 一
札幌市	梅園	菓子処の樹	田中 英雄
札幌市	焼きドーナツ	曲正 北島製パン(株)	北島 孝雄
札幌市	箱館塩かすてら	(株)北葉楼	堀 安規良
札幌市	北海道開拓おかし	福かしのとや	長沼 昭夫
札幌市	福かしわ	(株)きのとや	水戸部 公平
札幌市	くらんじゅ	(株)クランベリー	小笠原 隆
札幌市	マドレーヌ	ケーキショップあかね	大窪 和巳
札幌市	五勝手屋羊かん	(株)五勝手屋本舗	若山 直
函館市	ベルギーチョココレートブラウニー	(株)三葉製菓(株)北かり	若山 孝三
札幌市	札幌市	三葉製菓(株)北かり	中川 仁
札幌市	札幌市	シヤトルニス	小林 孝三
札幌市	札幌市	(株)シャルロット	中川 仁
札幌市	札幌市	シヨコラティエマサール	吉本 晋治
札幌市	札幌市	(株)白松がモナカ本舗	古松 一健
札幌市	札幌市	(有)末廣庵	竹田 光伸
札幌市	札幌市	(有)末廣軒	渡辺 孝博
札幌市	札幌市	(株)清月	庭山 修子
札幌市	札幌市	千秋庵製菓(株)	渡邊 孝博
札幌市	札幌市	高砂屋菓子舗	若田 晃和
札幌市	札幌市	タケタ製菓(株)	鈴木 培弘
札幌市	札幌市	竹屋製菓(株)	村本 定範
札幌市	札幌市	(株)壺屋総本店	中ノ目孝彦
札幌市	札幌市	中栄菓子舗	中ノ目孝彦
札幌市	札幌市	甘納豆	新倉 吉晴
札幌市	札幌市	雪明かりの路	村木 敏臣
札幌市	札幌市	ベルネージュ	若杉 充宏
札幌市	札幌市	ロマネスク函館	福居 恵美子
札幌市	札幌市	あんこようかん等	古谷 公億
札幌市	札幌市	バターせんべい	堀 安規良
札幌市	札幌市	夕張メロンピュアゼリー	川西 文男
札幌市	札幌市	どら焼	竹林 和俊
札幌市	札幌市	お供え餅	田村 一洋
札幌市	札幌市	元祖三石羊羹	松村 泰昇
札幌市	札幌市	あんバターサン	和田 洋
札幌市	札幌市	留萌の星	若狭 洋
札幌市	札幌市	ひとつ鍋	
札幌市	札幌市	わかさいも	

職場体験学習

札幌市内の中学生が、北海道神宮に於いて授与所を中心に職場体験学習を行いました。

宮の森中学校



10月17、18日

向陵中学校



11月20、21日

北辰中学校



11月13日

頓宮例祭



北海道神宮頓宮

九月十四日、十五日と頓宮宵宮祭、例祭が斎行されました。

十四日宵宮祭は吉田宮司の斎主に依り、又、十五日は井澤権宮司の斎主に依り、厳粛なうち滞りなく祭事が執り行われました。

尚、令和となり初の頓宮のお祭りともあって、事前より地域町内の氏子さん、一日講社の方々の入念なる打ち合わせ、準備等に依り、当日境内では地域の方の自前の露店が建ち並び、奉納舞台も地元の中央小学校六年生の鼓隊による演奏を皮切りに、能、フラダンス、弾き語り等々真心こもる演目が披露され、十五日には元気な子供神輿も町内を練り回り、大変賑やかな頓宮のお祭りとなりました。

十月一日全国一斉日本酒で乾杯



十月一日、頓宮月次祭・一日講社誕生祭の直会に併せ、北海道酒造組合に依る「十月一日全国一斉日本酒で乾杯」が開催されました。

直会会場には、一日講社講員の他地域の方、日本酒の愛好家を含め約八十名の方々が、全道各地の日本酒の味に酔いしれ、互いに懇親を深めておりました。

がんばれ！ 北海道

開拓の群像特集

合田 一道



歴史から見えるもの ④9

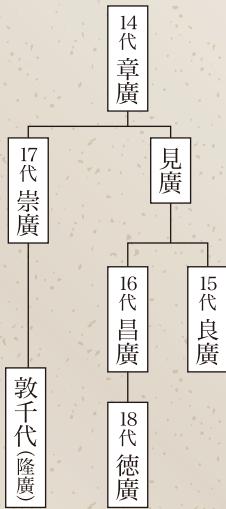
逃走の果て、無念の死 松前徳廣

箱館戦争で大きな被害を受けたのが松前藩です。この時期、松前藩内は尊皇か佐幕かで揺れていました。新政府の機関が置かれた直後、旧幕府脱走軍が侵攻し、藩主の松前徳廣は、悲劇的な道を辿るのです。



松前徳廣

松前徳廣は家老の下国安芸や藩士の田崎東とともに、開拓神社に祭られています。その最期を知る人は意外に少ないようです。徳廣は松前藩十六代藩主昌廣の子に生まれました。ところが父昌廣は重い病気にかかり、退隠してしまいます。この時、徳廣は七歳。このため大叔父の崇廣たかひろが後を継ぎます。中継ぎの役目でした。(図参照)



崇廣は有能な人物で、幕閣に引き立てられ、海陸総奉行として辣腕を振ります。だが長州征伐や兵庫開港をめぐる朝廷の怒りを受け、官位を剥奪され、松前に戻って謹慎しますが、ほどなく病没します。

跡を継いだ徳廣は二十四歳になっていました。生来体が弱かったのですが、四書五経を読み、後に『彗星考』『蝦夷島奇観補注』を著すほどの英才でした。

江戸屋敷から松前に移りますが、体調が優れず、政務は家老の蛸崎勘解由らに委ねられました。蛸崎は国内が勤皇か佐幕かで揺れる中、苦慮しながら政務を続けます。

徳廣が隠退を望んだので、蛸崎はこれを好機ととらえ、崇廣の息子の敦千代を擁立しようと図ります。折しも王政復古が宣せられ、慶応四年(明治元年、1868)一月、戊辰戦争の火蓋が切られました。

国内はまっ二つに割れて戦乱が続く中の同年四月、新政府の清水谷公考が箱館の五稜郭に入りました。蛸崎らに反対する若手の鈴木識太郎、松井屯、下国東七郎らは、正義隊と名乗って清水谷に近づき、蛸崎らを処断し、徳廣を擁立して藩論を勤皇にすることを約束します。

清水谷の信任を得た正義隊の面々は、病臥する藩主徳廣に謁見して藩制改革の建白書を提出し、同意を得て蛸崎ら四人の重臣宅を襲撃し、殺害や自殺に追い込みます。正義隊のクーデターと呼ばれています。

ところが榎本武揚率いる旧幕府脱走軍が蝦夷地へ攻め込んできます。清水谷と勤皇を約束した松前藩が旧幕府軍を受け入

れるはずもなく、戦闘となり、福山(松前)城は落城。徳廣は武士団に守られて十一月十九日、熊石から船で脱出します。二十二日明け方、津軽平館に到着し、弘前薬師院に入りましたが、二十九日、咯血して絶命しました。

同行の家老らは、城を奪われ、藩主が死んだとなれば、藩が取り潰しになると恐れ、「皇上に対して面目なく、自刃して相果て候」という内容の遺書を偽造して自刃を装い、新政府に報告したのでした。

これにより松前藩へのお咎めはなく、翌年の蝦夷島征討軍の先陣に立つことになるのです。それにしても徳廣の生涯は、歴史の動乱の波に弄ばれ続けた気の毒なものでした。



福山(松前)城

◆プロフィール◆

昭和九年(一九三四)、空知郡上砂川町生まれ。北海道新聞に入社し、道内各地を回る。在職中からノンフィクション作品を発表。『定山坊行方不明の謎』で北海道ノンフィクション大賞を受賞。退職後は札幌大学文化学部講師。著書は『日本史の現場検証』『人間登場』北の歴史を彩る『大君の刀』など。

奉賛会だより



年頭の辞

北海道神宮奉賛会 会長 岩田 圭剛

明けましておめでとございます。令和二年の新春を皆様とともに迎えるにあたり、謹んで皇室の弥栄と、北海道神宮のご隆昌、また会員の皆様の益々のご健勝をお祈り申し上げます。

昨年は御大礼の奉祝の年にあたり、また北海道神宮におかれましても御鎮齋百五十年をお迎えになりました。奉賛会としましては、御皇室に奉祝の誠を捧げるとともに、北海道神宮の記念事業である廻廊の釣り灯籠の掛け替え事業に対しご協賛申し上げました。かつては御鎮齋記念祭にあわせ献灯祭が行われていたと承っております。それに倣うように、御鎮齋百五十年を迎えられたこの時に釣り灯籠の掛け替え事業が企画されました。令和という新しい時代にあたって、御神前にあらたな灯を献じることが、御神威を高め、その徳を崇敬者がひとしくすることとなり、かかる事業に御協賛できましたことは、奉賛会にとりましても名誉なことであり、ありがたいことと存じております。

また、令和元年度の奉賛会事業としましては、昭和六十三年より続いて参りました境内清掃奉仕が、今年十月二十七日に約五十名の会員の皆様のご奉仕により行われました。この活動は昭和六十三年の総会での会員提案により始まったものです。我々は新しい御代のもと積極的に奉賛活動を行い、本会創設以来の精神を忘れることなく、北海道神宮への奉賛の誠を捧げて参りたいと存じます。皆様方におかれましては益々のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。本年も会員の皆様にとりまして、幸多き佳き年となりますようご祈念申し上げます。

新入会員・協賛者のご紹介

当会へのご入会・ご協賛を頂きまして、まことに有り難うございます。令和元年九月二日から十二月末日までのご案内の方、またご協賛頂きました方のご芳名をご報告致します。お名前漏れ等ございましたら、お手数ですが事務局までご連絡下さい。(順不同・敬称略)

新入会員のご紹介

- 工藤 孝和
- 菊田 徳昭
- 小池 修生
- 吉川 淳也
- 武田 知子
- 久保 ゆかり

奉賛会会員 神酒拝戴について

初詣の際、一月七日まで神門内に御神酒所を開設しておりますので、令和二年度会員証を提示して御神酒を拝戴してください。

尚、お車でお越しの方は、ご遠慮下さい。

第三十二回 境内清掃奉仕

北海道神宮奉賛会の恒例行事であります、境内の清掃奉仕が十月二十七日(日)に行われ四十八名の皆様の参加を頂き行われました。



集合写真



清掃奉仕



えと鈴(子)

北の志づめ 第208号

令和2年1月1日発行

〒064-8505
札幌市中央区宮ヶ丘474
電話 011-611-0261
FAX 011-611-0264

北海道神宮社務所